東北大学交響楽団の第１６５回定期演奏会が、12月５日に川内萩ホールにて開催される。

交響楽団は現在約１４０名の部員が在籍しており、普段は個人練習やセクションごとの練習、合奏練習を主にこなしている。最近では演奏会が近づき合奏練習の頻度が増え、練習にも緊張感が出てきている。例年、定期演奏会は年２回開催されるが、秋の演奏会は卒団するメンバーにとって最後のステージとなる。充実したメンバーで臨めるため、良い演奏が期待できるとコンサートマスターの深井隆達さん（理・修士１）は語る。

今回の定期演奏会では３曲が披露される。実行委員長の小長井悟史さん（理・３）は「演奏をする側、聴く側の垣根を越えて、会場にいる全員で一つの音楽に没頭できる演奏会にしたい」と意気込む。

最初の曲はニールセンの組曲「アラジン」。本学交響楽団がフルオーケストラで「アラジン」を演奏するのは今回が初となる。独特な技法で演奏され、アラビアンナイトの雰囲気を味わうことができるだろう。

次の曲はハイドンの交響曲第１０１番「時計」。この曲は少人数で編成され、各パートに難易度の高い部分が存在する。「難しい楽曲だからこそ、全ての楽器が揃ったときには喜びに満ち溢れるような音楽を奏でることができる」と小長井さんは語る。

最後の曲はドヴォルザークの交響曲第８番。出身国であるチェコの民謡や踊りが随所に取り入れられ、作曲者の祖国愛を感じさせる楽曲となっている。ドヴォルザークの交響曲では第９番「新世界より」が特に有名だが、彼の円熟期の作品である第８番はそれに勝るとも劣らない評価を得ている。

交響楽の魅力について、深井さんは「様々な楽器の音が混ざり合うときの快感は交響楽ならでは。電子音ではなく生の演奏の、音の違いを聴いてほしい」と語る。定期演奏会は交響楽の演奏を間近で味わえる丁度良い機会となる。生の演奏を聴きに、足を運んでみてはいかがだろうか。

12月５日、場所は川内萩ホール。18時開場、18時30分開演。自由席１０００円、指定席１５００円。